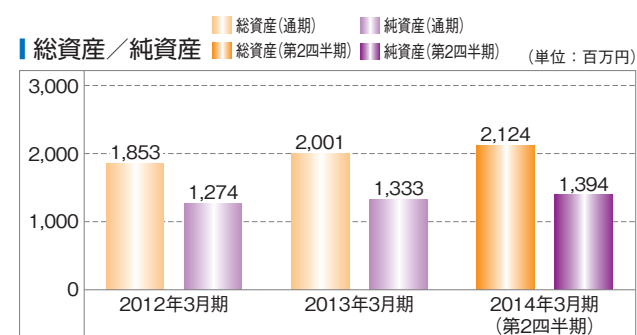
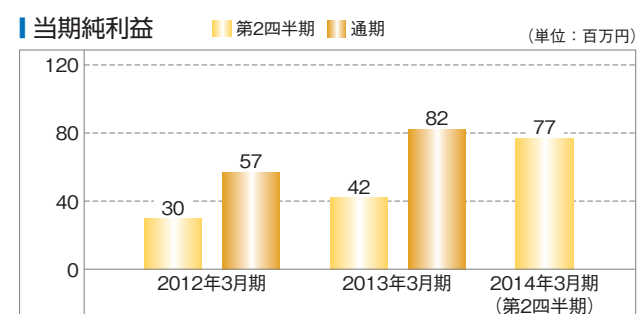
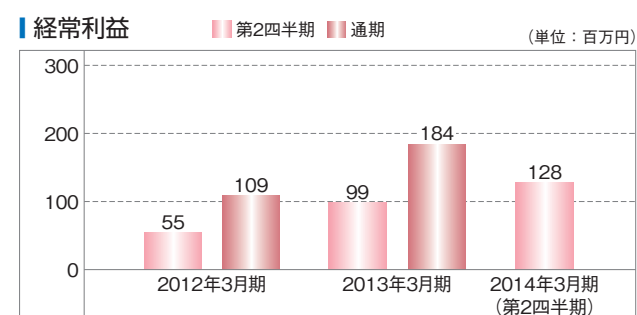
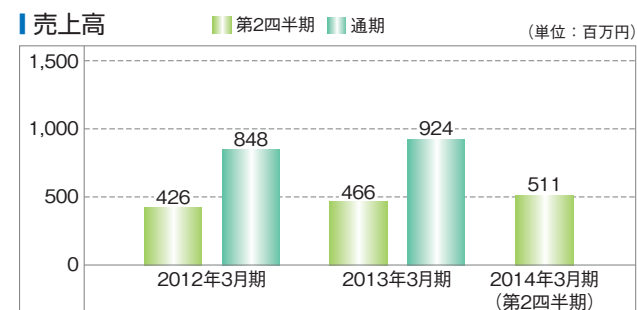


財務ハイライト (連結) Financial Highlights

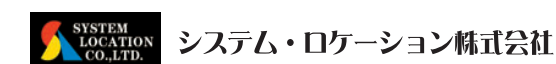


株主メモ Stockholder Memo

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月
 基準日 定時株主総会 3月31日
 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日
 (中間配当を実施する場合)
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 同事務取扱所 〒168-0063
 (お問い合わせ先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 TEL 0120-782-031 (フリーダイヤル)
 同取次窓口 三井住友信託銀行株式会社 全国各支店
 公告方法 電子公告。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とする。
 同公告掲載サイトアドレス <http://www.slc.jp/>

株主通信 第46期 中間報告書

2013年4月1日から2013年9月30日まで



I 株主の皆様へ

Top Message

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、当社グループの第46期中間期（2013年4月1日～2013年9月30日）の事業概況と決算をご報告いたします。

当中間期のわが国の経済は緩やかな回復基調で推移し、当社グループの主要顧客であるオートリース会社を中心とする自動車ファイナンス業界では、合従連衡へのさらなる動きが進む中、引き続き好調なリース終了車両の輸出に支えられ再販利益が順調に推移しました。

当社グループの業績は、再販業務支援売上では入札会における出品台数の順調な伸びにより、前年同期比8.0%増の262百万円となり、システム業務支援売上ではシステムの導入顧客の増加と一時開発案件により、前年同期比で11.2%増の249百万円となりました。これにより、当中間期における連結売上高は511百万円となり前年同期比9.5%の増収となりました。

原価面はほぼ前年並みに推移しましたが、販売費及び一般管理費は、営業拡大にともなう旅費交通費やコンサル費用等の増加があり前年同期比10.4%増の197百万円となりました。これにより連結営業利益では、115百万円と前年同期比25.8%の増益となり、営業外収益での持分法による投資利益の貢献もあり、連結経常利益は、128百万円と前年同期比29.0%の増益となりました。

以上の結果、当中間期の連結純利益は77百万円となり、前年同期比81.9%の増益となりました。

また、海外展開においては7月に中国における現地法人を設立しました。

現在、当社は「システム業務支援の推進」、「海外展開の推進」を重点課題に全社一丸となって取り組みを進めており、今後とも株主の皆様のご期待に沿うべく一層の経営努力を重ねてまいりますので、よろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 千村岳彦

I ビジネスモデル

Business Model

